

キーワード 見守り、みまもりのわ（和・輪・話）、認知症サポーター、ケーブルテレビ

認知症高齢者の早期発見・見守りに向けた「みまもりのわ事業」

岐阜県 東白川村

【この事例の特徴】

一般住民(小学生含む)、事業所などへの啓発活動により認知症への理解が高まり、隣人や事業所などから地域包括支援センターや社協に認知症高齢者に関する相談が入るようになった。

地域概要

総人口:	2,607 人
65 歳以上人口:	1,005 人(38.6%)
75 歳以上人口:	642 人(24.6%)
要介護要支援認定者数:	170 人(16.9%)
地域包括支援センター数:	1ヵ所
第5期介護保険料:	3,000 円



背景・経緯

【背景】

- 東白川村は岐阜県でも一番高齢化率の高い「少子高齢化の村」である。独居世帯や高齢世帯の増加もあり、行政や社協だけではフォローしきれないため、「認知症になっても、安心して安全に暮らせる村をめざして、みまもりのわ(和・輪・話)を広げよう」をスローガンに、村全体で見守りあえる地域づくりをすすめることとした。
- 「年寄りばかりで大変！」といったネガティブなイメージではなく、「年を取ってもへっちゃら！ここは高齢者の住みやすい村！」というポジティブなイメージを持てるような事業展開を図っている。

【経緯】

- 平成 21 年に国の「認知症地域支援体制構築等事業」のモデル事業指定を受けて、認知症サポーター養成講座を開催
- 平成 22 年度 村単独事業として、本格的に事業を展開
(知識普及のための講演会、みまもり事業所の協力依頼、専門相談、地域資源マップ作成等)
- 現在も引き続き実施中
- **予算等**: 事業展開にかかる費用は村費。
25 年度予算 みまもり訪問員活動以外の事業 341,000 円(村単)
＋みまもり訪問員にかかる費用 1,670,000 円(うち地域支援交付金 990,000 円)

取り組み内容と方法

【取り組み内容】

- 一般向けの取り組み
 - ◇ 認知症の理解を深めるための知識の普及のために、一般住民向けの講演会の開催
 - ◇ 村のケーブルテレビを活用した広報活動
(包括支援センター、診療所、社会福祉協議会がそれぞれの立場で、認知症の知識の普及や相談事業等のPR、日常生活上の注意点や介護の工夫、サービスの紹介等を行う)
 - ◇ 小学校へ出向いて認知症に関する事業を展開(小学6年生対象)
- 独居・高齢世帯向けの取り組み
 - ◇ 独居・高齢世帯の当事者向けの講演会の実施
 - ◇ 「わたしの連絡先」を作成
(独居・高齢世帯向けに、自宅の住所や電話番号、子ども等の連絡先を記載したA5版のパウチ)
 - ◇ 年老いた親を村に残して村外に暮らしている家族を対象とした家族会(独居・高齢世帯の家族会)の開催(毎年8月13日に実施)
- 事業所等を対象とした取り組み
 - ◇ 民生委員、自治会長(福祉委員)、役場や農協、郵便局も含めた協力事業所等を対象とした認知症に関する講習会の開催
 - ◇ 一般事業所には「みまもり協力隊」として、「みまもりのわ」のポスター掲示や事業所用車両にみまもりのわロゴマークのマグネットの掲示を依頼
 - ◇ 各事業所ができる支援と、公共サービスを一冊にまとめた「暮らしに役立つしおり」(資源マップ)の作成と全戸配布
- 専門職等のかかわる取り組み
 - ◇ 保健師・看護師のOGを「みまもり訪問員」として雇用し、高齢者を随時訪問するみまもり訪問活動を実施
 - ◇ 専門医師による認知症相談を年4回実施
 - ◇ 保健福祉センターで毎月何でも相談会(ひだまり広場)を開催

【取り組みの体制】

- 地域包括支援センター、診療所、社会福祉協議会から2～4名ずつ選出した「みまもりのわ事業」スタッフが中心になり、企画・立案して展開している。

取り組みの成果と課題

【成果】

- 平成 21 年に国の「認知症地域支援体制構築等事業」のモデル事業指定を受けて事業を開始し、今年で丸 5 年を迎えた。この事業全体に関する数値的な評価は行っていないためはっきりとしたことは言えないが、認知症に対する正しい知識が浸透しつつあると感じている。この 4 年間で講演会に参加した人は延べ 600 人を超え、協力事業所は 53 ヶ所となった。
- 認知症の相談について、家族以外の近隣の人や事業所などからも包括支援センターや社協へ連絡が入ることが多くなった。また認知症だけでなく、その他の疾患についても、毎回相談があり、敷居が低くなったと感じている。
- 独居・高齢世帯の家族会を開催することで、村外に住む家族との「顔の見える関係づくり」が進み、村外の家族からの相談も入るようになった。また家族会に参加はしなくても、親を見守る、近隣の人との関係づくりにつながっている。
- みまもり訪問員による随時訪問では、今まで埋もれていた支援を必要とする高齢者に対して、早期に対応できるようになった。
- 「私の連絡先」の作成により、いざというときの連絡先が把握できた。

【課題】

- 苦労した点はあまりないが、課題としては次のような点が挙げられる。
- 事業所向けの講習会の参加率が低いため、そのあり方を検討する必要がある。
- 資源マップの内容が高齢者寄りの冊子なので、全戸配布しても活用度が低い。

【今後の展開】

- 高齢者の数は横ばいで増えないが、人口が減少するため高齢化率は今後も上がっていくと予想されている。その中でお互いが見守りあえる地域づくりをすすめようとする、高齢者自身が今までのように「一方的に与えられる立場」ではなく、「自分達にもできる活動」「役割」を自ら果たせるような機運・地域づくりが必要と思われる。

参考 URL、連絡先

- 東白川村 国保診療所 保健福祉部門(東白川村地域包括支援センター)
<http://kamo-areaservice.info/place/%E6%9D%B1%E7%99%BD%E5%B7%9D%E6%9D%91%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E5%8C%85%E6%8B%AC%E6%94%AF%E6%8F%B4%E3%82%BB%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%83%BC/>
0574-78-2100